

第2回上流部会 参考資料

- ・ 第1回上流部会議事要旨
- ・ 第1回住民懇談会(長野県内)実施状況
- ・ 第1回千曲川・犀川沿川自治体懇談会議事要旨
- ・ 信濃川流域住民アンケート集計結果

信濃川学識者会議 第1回上流部会 議事要旨

開催日時：平成20年9月30日（火）10:00～12:00

場所：ウェルシティーNAGANO 2階 会議室「樹林」

議事次第：1. 開会

2. 挨拶

3. 委員の紹介

4. 信濃川水系学識者会議について

5. 部会長選出

6. 議事

① 「上流部会で議論して頂く事項」の説明

② 千曲川・犀川の現状と課題

7. 閉会

○部会長選出

規約第3条第4項に基づき、上流部会長に、富所五郎 信州大学名誉教授を選出した。

○議事

①「上流部会で議論して頂く事項」の説明

②千曲川・犀川の現状と課題

（A委員）

- 信濃川水系の国管理区間には、中抜けの区間がある。今日の話の中には含まれていないと思うが、県管理区間についてはどのように理解したらいいのか。直轄に変更、あるいは地方分権といった議論があるが、一級河川は直轄がいいのではないかと感じている。その点についてこの会議の中では話題になるのかどうか聞かせていただきたい。

（事務局）

- 上流部会では、現時点では千曲川河川事務所及び大町ダム管理事務所の管理区間を考えている。県管理区間については、県が策定することとされているので、調整を図りつつ検討を進めていきたい。また諸般の事情により変更があった場合には別途説明させて頂きたい。

（B委員）

- 2000年までサケの稚魚を放流する事業が長野県で行われてきた。21年間行われて約900万匹放流したが、上がってきたのは70匹だけであった。それは、減水区間があるからである。上流部会では長野県と新潟県の境の県管理区間は議論の対象外となっているが、この点については整備計画の中でどのように位置づけられるのか。新しい河川法では、治水・利水に加えて河川環境を重視している。その視点からも、サケが遡上できる信濃

川が望まれる。

(事務局)

- 減水区間は主に県の管理区間にあるが、水利権については信濃川河川事務所で許可を出しているので、意見については全体会議に報告する。
- 現在、信濃川河川事務所で、JR、東京電力の減水区間について、学識者、沿川の自治体、利水者からなる協議会を設置し、どのように改善すればよいかが議論されており、サケの遡上期に放流量を増やす取り組みも行っている。

(C委員)

- 千曲川河川事務所の管理区間ではないが、佐久平の県管理区間にも流れ込み式の発電所があって、6割ぐらいが減水区間になっている。この部会に直接関係する課題ではないが、河川の正常な機能の維持に関する課題の一つだと考えられる。

(事務局)

- 環境への配慮は重要な課題だと考えている。非常に難しい課題であるが、検討していきたいと考えている。

(D委員)

- 河川の管理に関しては、「安全、安心」に関する課題と、「河川利用」に関する課題があり、2つの課題は分けて考える必要がある。
- 安全、安心に関しては、立ヶ花狭窄部をなんとかしていただきたい。立ヶ花の課題は下流の無堤地区、県管理区間更には新潟県側に影響があることから難しい課題であるが、何とかしなければならない課題である。新潟にも出かけていって早く対応してほしい旨をお願いをしている。そのためには、まずは堤防を強化していただきたい。
- 地方分権の議論は承知しているが、中抜け部分の県区間について、これを一括して国で管理していただきたい。
- 平成18年の洪水時には利水ダムによる流量調節も行われたと聞いている。安全・安心については技術論だと思うが、お金をかけてしっかりやっていただきたい。
- 利用の面では地方自治体として重要な課題と思っている。特に千曲川下流域などは非常にその恩恵を受けていると思っているが、まだ利用できる空間が残っている。それをどのように有効に使うかがポイントである。アレチウリ、ニセアカシアの繁茂により足の踏み場も無いような所もある。そういう所をスポーツ関係や親水公園といったものをつくることによって、河川を整備・管理する方法もある。また、そういったことを民間にやっていただくのも1つの方法と考えられる。

(事務局)

- 堤防の整備については、安全・安心の確保ということで、われわれも進めていきたいと考えている。
- 利用についても、非常に大事な観点と考えており、ご意見をいただいて、どんどん使えるかたちにしていきたいと考えている。

(D委員)

- 千曲川の一番上流に、ダムの計画があったが、とり止めとなったと聞いている。安全安心の観点で影響がなかったが疑問である。

(事務局)

- 上流ダムについては、平成14年頃に当時の河川局長が国会の答弁で、「白紙」だという話をした。
- 基本方針では1/100の流れを対象に計画流量が決定されているが、整備計画では今後30年間の目標をどのように設定し、何を整備するかということについてお示していくことが必要だと考えている。

(E委員)

- 狭窄部については飯山も同じであるが、この課題をどう解決するのか。
- 特に昨今、地球温暖化の影響についても課題視されている。長期的視野に立ってこのような課題をどう考えていくのかをお示しいただきたい。

(事務局)

- 現状は無堤区間が存在している状況であり、まずは堤防整備を優先していきたい。続いて河道掘削が必要となるが、その際は上下流のバランスを考慮する必要がある。

(F委員)

- 立ヶ花に関しては、もともと氾濫していた場所の周りに家が建ち、自由に氾濫していたのを流路を固定したため、トラブルスポットになったように見える。地形形状はどのようなになっているのか。

(事務局)

- 立ヶ花狭窄部は、洪水や地殻変動等の影響を受け、現在の位置に川ができあがっている。狭窄部では上流が氾濫するため、それを守る目的で、古くから必要な場所に堤防が整備されている。近代になり連続堤が整備されるようになり、その結果、現在の河道ができあがったものと考えられる。

(F委員)

- 危ないところは強固な堤防で整備しなければならないことはわかるが、上流の洪水調節施設の計画が変わればかさ上げが必要となる。長いスパンで見ると同じ事の繰り返しになるのではないか。

(事務局)

- 整備計画のスパンは概ね30年を予定しており、今後30年間でどういう川づくりをしていくかを定めるものである。戦後起きた一番大きな洪水に対して再度被害に遭わないような整備が必要と考えている。
- 整備メニューについては、意見を頂きたい。

(G委員)

- 環境保全のバロメータとして生物の状況が引き合いに出されるが、アユやウナギは長野

県下では野生絶滅の状況にある。アユを含める回遊魚を復活させるためには流域全体を通じた視野が必要かと思われるが、たとえばサケを復活させるといったビジョンまでを含めて考えていっていいのかどうかということを伺いたい。

(事務局)

- 難しい課題であるが、意見については、全体会議に上げさせていただく。

(H委員)

- 狭窄部という大きな課題がある事は聞いているが、上流部にも大きな課題がたくさんあると思っている。30年というスパンの中で予算がどれだけ付き、どれだけ整備できるのか。整備の優先順位を決める上で一番大きな課題は、ここだということをもう一度教えていただきたい。
- 上流部では完成堤防が非常に少ない状況にあり、不安がある。犀川上流域では河床低下の課題も悩み。取水困難な状況が発生し、大きな課題となっている。湧水を利用するワサビが地域の特産となっているが、河床低下により従来のような地下水が無くなってしまう。

(事務局)

- 委員から優先順位の話がありましたが、そこはまさにここで議論していただきたい。
- 無堤地区への築堤が優先など方向性は事務局として持っているが、各地域でいろいろと思入れがあるため、優先順位の課題という部分は、委員の皆様のお知恵を拝借したい。
- たとえば立ヶ花は非常に大事なところだということは考えているが、たとえば湧水、ワサビ田のところも当然認識はしているので配慮はしていきたいと考えている。

(部会長)

- 河床の低下、上昇に関する資料を次回に示していただきたい。

(事務局)

- 了解した。

(A委員)

- ワンドを造って頂いたり、公園を造ったりしているが、川の流れは複雑でワンドが埋まるなど課題が発生している。そのような課題についてどのように検討されているのか説明願いたい。

(事務局)

- 生態系を保全する目的で多自然川づくりに取り組んでおり、水際から生態系の連続性を確保する手法として各種工法を採用している。
- 外来種が課題となっているが、たとえばアレチウリやニセアカシアの課題は砂利採取等による低水路の河床低下と高水敷の陸地化が大きな原因であることが分かってきている。
- 河川生態学術研究会で検討を行っている、たとえば河道掘削するときにはどのように切ったらアレチウリやハリエンジュなどが発生してこないということも、いろいろな研究

でわかってきている。生態系に配慮しつつ、なおかつ治水上も安全が確保できるような研究を、現在進めているところである。

(F 委員)

- 河床低下もあるが、局所的に河床が上昇している所もあると思う。砂防を専門としている関係上、土砂の流出、礫径、摩耗といった観点で考えてしまう。土砂供給がなければ急流河川では掃流力が大きく、河床低下は当たり前と思うが、そういう河川に通常の河川堤防で対応可能か。また、土砂のコントロールをこの中で考えるのかどうかを伺いたい。

(事務局)

- 実際に整備メニューの中で、土砂コントロールまでを考慮したメニューが出せるかは難しいかもしれないが、流域総合土砂管理といった視点で調査、研究を進めている事務所もある。

(部会長)

- 土砂コントロールについては、基本方針の検討の際、委員長の強い要請で入れることになった項目である。

(I 委員)

- 整備計画は、30 年のスパンということであるが、目標流量の途中変更というのは基本的にはないのか。

(事務局)

- 流量については、いま考えているのは、戦後の洪水での最大規模、具体的に言うと昭和 58 年ぐらいがそれに近いが、それを目指していこうと考えている。
- メニューについては、30 年の中でできるものを拾い上げていくというかたちで、目標が完全に達成できるかどうかは難しい議論である。

(I 委員)

- 地域の住民が安心して生活できる環境をつくることは重要なことである。最近、ゲリラ的な豪雨もあり、地域の住民が既設利水ダム of 治水利用について、検討をしていく必要があるのではないか。
- 築堤をしてもらえばいいが、堤防はすぐにはできないので、河川の安全度を上げるために貯水池等を設置する計画をしてもらえれば安心して生活できる。

(事務局)

- 平成 18 年の洪水の際は、事務所や地域が協議、調整をして、各利水者にお願いする形で対応を行っている。これは、制度上行っているものではなく、今日までの協力関係を築いてきたことによってできるようになったものだろうと考えている。
- 貯水池については、ご意見を伺いながら、どのような施策を講じていくかということを議論していただくことになろうかと考えている。
- 30 年というスパンを考えた場合、新たにダムをつくることは整備メニュー的に入ってこないと考えられるので、まずは河道整備を優先したいと考えている。

(J 委員)

- 課題の中で最後のほうに出ている河川利用や地域連携という項目について、これから環境保全などいろいろな意味で必要になってくる課題であり、今後考えていきたいと考えている。
- ボランティアサポートプログラムというのは、働きかけてこのような団体をつくっているのか。

(事務局)

- 地域連携については、積極的に推進していきたい。
- ボランティアサポートは、もともと地域で活動しておられる団体を国も支援していこうという制度である。

(部会長)

- 犀川については治水ダムだけではなく、大きな電力ダムが多く、緊急時の対応により効果を発揮することが期待される。それに対し、千曲川については、大きなダムがほとんどなく、両河川のアンバランスが非常に激しいと思う。
- 昭和 58 年の洪水を当面の目標とするのはいいが、それ以上の洪水が起こらないとは限らないので、そういうことを念頭において整備計画も立てなければいけないのではないかと思う。

(C 委員)

- 千曲川の河川事務所は、過去から非常に優れた刊行物をつくっておられるので、ぜひこの機会に住民の皆さんに、知識の共有のために役立つような、千曲川の特性を大いに加味した川の読本みたいなものをつくっていただけるとありがたい。

(K 委員)

- 生態学術研究に関しては、冠水頻度を考えて高さをきちんと計算した上で掘削すると、ただ自然破壊になるということではなく、外来種を排除出来たり、あるいはそこに水辺の植生が復活してくる。掘削する高さなどを考えることで、自然破壊ではなく、積極的な環境創出ができるのではないかと思う。
- ニセアカシアについては養蜂家が利用するなどしており、害だけとは考えられないため、場所はパッチ状に残すなど、やり方は考えられるので、次回以降、議論できればと思う。

(L 委員)

- 「千曲川」の名を冠している千曲市では、市全体の中で河川が占める割合は大きい。いかに市民が多く利用できるものにするかが重要と考える。狭窄部の課題については、上下流のバランスが必要との中で、方法論を考える必要があるものと感じた。

信濃川水系河川整備計画

第1回住民懇談会(長野県内) 実施状況

○住民懇談会での意見の集約方法

住民懇談会では、千曲川河川事務所より「河川整備基本方針」及び「河川整備計画」の制度概要、「千曲川・犀川の現状と課題」について説明した後、河川整備に関する意見を伺いました。

意見の趣旨・具体的な箇所等については、会場で対話形式にてお聞かせ頂きましたが、皆様のご意見を具体的に文書化する事が困難なため、項目のみを箇条書きさせて頂きました。

○各会場の実施状況

長野会場

1. 日 時 平成20年10月26日(日) 10:00～11:30
2. 場 所 長野県教育会館
3. 参加者 32名
4. 意見質問等

【治水】

- 立ヶ花狭窄部の開削に関する要望。
- 千曲川が HWL に達したら、ポンプが停止させられ内水被害が生じる。立ヶ花狭窄部の開削により千曲川の水位を低下させてほしい。
- 狭窄部の改修方法として、トンネル河道とすることも考えられる。
- 西大滝ダムが川の流れを阻害。西大滝ダム付近の開削が必要。
- 堤防強化に関する要望。無堤区間、暫定堤防区間の完成堤防改修に関する要望。
- 遊水池整備に関する要望。
- 発電ダムの洪水時の有効活用に関する要望。
- 土砂堆積対策の要望。
- 重要水防箇所を計画的に整備してほしい。
- 内水対策に関する要望（排水機場の新設、ポンプの増強など）。
- 市町村と連携した危機管理体制の確立・強化を要望。流域住民へ危機管理に対する啓発を行うことが重要。
- 流域全体を考えた治水対策(森林整備)への取り組みが必要。

【利水】

- 犀川の減水区間（生坂ダム～小田切ダム）を解消するためのダム放流を要望。

【維持管理】

- 河道内樹木が流下阻害になっており問題。

【その他】

- 河川敷地内の民有地の権利問題について検討してほしい。
- 災害時の補償を行うべき。
- 住民懇談会の開催方法に関する意見。

松本会場

1. 日 時 平成20年10月26日(日) 14:00～15:30
2. 場 所 松本市水防センター
3. 参加者 12名
4. 意見質問等

【治水】

- 治水上マイナス面が大きいダムは撤去も検討するべき。
- 土砂堆積対策の要望。
- 堤防整備の方策として、輪中堤はよい方法である。
- 川が溢れることを前提とし、街づくりといった広い視点で臨むことも必要。
- 河道内樹木の流出を前提とした治水対策(橋梁嵩上など)が必要。

【環境】

- 河道に樹木があることで利点もある。伐採のやり方についてはルールづくりが必要。
- ケショウヤナギの保全のためには、河道内のかく乱が必要であり、ダムのフラッシュ放流など洪水並みに水を流すというような発想も重要。

【維持管理】

- 河床低下により、樹木に水がつかないため樹林化が進行している。河床低下は、ダムにより土砂供給が減少していることも原因。土砂供給をシステムチックに考えていかなければならない。
- 万水川で工事を実施しているが、三川合流点に土砂が堆積しているため、流下能力が不足しているのではないかと。支川管理者と連携した維持管理が重要。

【その他】

- 住民懇談会の開催方法に関する意見。
- 河川整備基本方針に関する質問・意見。
- 支川に関する質問・意見(奈良井川など)。
- 危険水位の設定に関する意見。

上田会場

1. 日 時 平成20年10月27日(月) 18:30～20:00
2. 場 所 上田市中心公民館
3. 参加者 15名
4. 意見質問等

【治水】

- 堤防強化に関する要望。無堤区間、暫定堤防区間の完成堤防改修に関する要望。

【利水】

- 河川水を消化用水として利用するための環境整備を要望。

【環境】

- 外来種を排除するためには住民参加による取り組みが必要。

【維持管理】

- ハリエンジュは有効な資源なので公募伐採を継続してほしい。
- 住民が自由に河道内樹木を伐採できるようにしてほしい。
- 支川合流点に土砂が堆積しているため対策が必要。

【その他】

- 堤防天端を一般道路として使用したい。
- 国から自治体へ危険箇所に関する指導を要望。日頃から関係機関と地域とのコミュニケーションが重要。
- 住民意見の窓口を広くしてほしい。
- 支川管理者との連携が必要。
- 住民懇談会の説明資料に関する意見（専門用語が難しい）。

飯山会場

1. 日 時 平成20年10月28日(火) 18:30～20:00
2. 場 所 飯山市役所 委員会室
3. 参加者 24名
4. 意見質問等

【治水】

- 西大滝ダムが川の流れを阻害。西大滝ダム付近の開削が必要。
- 戸狩狭窄部の開削に関する要望。
- 災害を未然に防止するために計画的な護岸整備を進めてほしい。

【利水】

- 水利権更新の期間短縮を要望。

【環境】

- 宮中ダムと同様、西大滝ダムがサケの遡上を阻害している。
- サケの放流など住民活動を国土交通省からバックアップしてもらいたい。
- 北信地区の観光資源として千曲川は重要である。
- 船下りができるような河川整備を要望。

【維持管理】

- 河道内樹木が流下阻害になっており問題。

【その他】

- 千曲川下流長野県管理区間の直轄管理への編入に関する要望。

信濃川水系河川整備計画

第1回千曲川・犀川沿川自治体懇談会 議事要旨

開催日時：平成20年10月20日（月） 14：00～16：00

場 所：メルパルク長野 3階「白鳳」

議事次第：1. 開会

2. 挨拶

3. 議事

① 河川整備基本方針、河川整備計画について

② 信濃川水系河川整備基本方針の概要

③ 千曲川・犀川の現状と課題

4. 閉会

○ 議事

（長野市）

- 長野市で問題なのは、立ヶ花の狭窄部である。下流地域に無堤地区があり、水害に遭われていることは十分承知をしているが、何としても立ヶ花の治水基準点での洪水時の水位を10cmでも、5cmでも下げていただきたい。
- 支川の内水排除をできるかできないかは、立ヶ花の水位にかかっている。
- 上流で水をできるだけ流さない対策もあるのではないかと。過去の例でいくと、犀川の上流地域には発電を中心としたダム群もあり、災害時にこれを治水目的で利用していただいた経過もある。そういうことをもう少し世間にアピールをしていただき、さらに発電専用のダムであっても洪水時には使っていただきたい。
- 上流では、できるだけ下流に流さない対策をとっていただき、その中で立ヶ花から下流についても、できるだけ水を流せるよう対策を講じていただきたい。

（事務局）

- 立ヶ花狭窄部の問題は、非常に大きな課題として、現状をよく認識している。
- ダムの新設については、ここで回答はできないが、まずは河川の整備が重要と考えている。既設ダムの利用については、平成18年の洪水においても、実は発電ダムにかなり協力して頂いた実績がある。しかし、ある条件が整った段階で協力していただくといった下地はできているが、いつでもできるというわけではない。調整が必要という課題意識は持っている。

（須坂市）

- 立ヶ花を含めた狭窄部についての対応をお願いしたい。
- 現状として、堤防が未完成の部分もあるので、その地区の完成を是非お願いしたい。
- 八木沢樋門工事の際に堤防断面を確認させていただいたが礫混じり状態であった。

漏水対策について非常に力を入れていただいていると認識しているが、引き続きお願いしたい。

- 須坂市内にある排水機場のほとんどが、農業関係の湛水防除を目的に設置されたものであるが、都市化が進み生命・財産を守るという考え方になっており、内水についても、対策を立てていただきたい。
- 住民等の川の利用の仕方として、川の大切さ、自然とのふれあいといったことを総合的に踏まえて、できればボート等が発着できるような、親水といった利用方法を考えていただきたい。

(事務局)

- 堤防の漏水対策については、課題として認識している。
- 内水対策については、支川の管理者が計画を立てることになっており、具体的には管理者と調整していくことになる。
- 川の利用については、市町村の皆様と調整・協力して進めていかなければならないと考えている。

(飯山市)

- 昭和57年、58年に大きな水害を経験したということで、飯山市では河川の関係について非常に大きな関心を持っている。
- 2年連続の洪水後、千曲川の激特事業で大きな投資をいただき、従来の堤防から2m～2.5mの嵩上げをしていただいた。その後も、桜づつみ工事等により強固な堤防が完成している。平成18年7月洪水では、昭和58年洪水に次ぐ過去2番目の洪水であったが、堤防の破堤はなかったということで、河川改修が非常に効果があった。
- 流下能力については、現在の堤防嵩上げだけでは不十分であり、狭窄部の開削という問題がある。河川改修の中で優先順位をつけるとすれば、下流の戸狩狭窄部から手をつけていただきたい。
- 県管理区間について直轄編入要望をしており、上流、下流水系一貫で国に管理をしていただきたい。
- 樹木の伐採や中州の除去の問題、河床整備の問題、それから特に河川敷については、アレチウリの関係等もあるが、荒廃農地、荒れている土地がかなりあり、そういった問題は、地元も含め管理していくことも大事だと考えている。

(事務局)

- 昭和57年、58年洪水について、激特事業の効果があったということで、再度災害防止は非常に重要な施策であると考えている。
- 県管理区間の直轄化については、政府全体で大きな議論をされているところということで、その動きを見ながら対応していきたい。整備計画については、直轄区間ということで議論をさせていただいているが、新たな議論があれば、当然そこを反映させたかたちで皆様に話題を提供させていただく。県管理区間と直轄管理

区間の整合も図っていきたいと考えている。

(中野市)

- 立ヶ花狭窄部上流に篠井川が合流しており、篠井川の上流部で湛水し被害が出ていることもあり、狭窄部の開削をお願いしたい。
- 笠倉等をはじめとした無堤地区があるので、まずは無堤地区の解消、引き続いて狭窄部の解消を進めていくようお願いをしたい。

(生坂村)

- 生坂村の直轄部分で引堤計画（小立野地区）があるため、今の堤防は暫定的なものと聞いているが、今後の整備について整備計画の中で検討していただきたい。
- 下生野から小立野間にかけて、県道があり山つき区間として護岸が整備されていないため、徐々に洗掘される状況にある。県道は、生活道路になっており、これが決壊したりすると住民の生活が著しく脅かされることから、護岸の整備も計画に入れていただきたい。
- 犀川の中抜け区間についても、国の直轄で管理をお願いしたい。

(事務局)

- 整備計画では、具体的な場所や断面を決定することになる。地元の方がどういう要望を持っているか、市町村の皆さんからお聞かせ願いたい。
- 整備計画については、概ね 30 年での計画であり、当然、財源が伴う計画である。要望がすべてできるというかたちにはならなくて、どうしても優先順位をつける必要が出てくることも承知していただきたい。

(木島平村)

- 現状として、樽川における千曲川のバックウォーターが大変問題となっているため、対策をしていただきたい。
- 整備計画の中で要望していきたいのは、狭窄部の問題をどうするのかということである。実際の川のことからいえば下流から、戸狩狭窄部から整備していただきたい。
- 整備にあたっては、上・下流でよく対話をしたうえで整備をしていくことが必要ということは認識しているが、狭窄部の間に挟まった木島平村としては、遊水地化を認められているという思いがある。
- 樽川では、100年に一度ではなく、千曲川の出水が起こる度に、バックウォーターによる農地浸水が常態化している。これを何とかするには、整備計画で対応していただかなければいけない。

(事務局)

- バックウォーターの件については、承知しているが、狭窄部の上流で起こるため、狭窄部を広げれば、水位は下がることはわかっている。
- 上下流バランスの問題もあるため、頂いた意見を踏まえ案を作成し提示する。
- 遊水地化については、そのようなことは考えておらず、堤防が無い箇所について

は堤防を整備していく。

(安曇野市)

- 犀川について、三川合流点はワサビの栽培や遊水池に白鳥がきており、地域の皆様に大変親しんでいただいている。
- 三川合流点付近も築堤計画があり、かつ低水護岸の計画もあったかと記憶している。完成堤防ができないのに低水護岸を先に整備出来ないというお話は以前から伺っているが、憩いの場として使っている部分については、低水護岸を先行して整備していただくことはできないか。
- 犀川上流は、河川勾配がきつく上流からの土砂の流出が少なくなっており、河床が低下している。河川内の樹林化と併せて対策を講じていただきたい。
- 平成 17、18 年の災害復旧で、何か所か水制工等をやっていただき、多少の効果はあったと認識している。抜本的な工事のほかに、こういった工法を取り入れ、護岸と環境を併せて、少ない費用でできるような仕事を多く取り入れていただきたい。
- 樹木管理について安曇野市の河川でもハリエンジュが樹林化し苦慮している。公募伐採は河川区域内の官地という条件があるが、河川管理上支障のある部分を大きくとらえて頂き、その区域について、市と共に官地、民地関係なく整備するように対応していただきたい。

(事務局)

- 三川合流点付近を含めた護岸の整備については、急流河川における課題として認識しているが、実態としては下流の流下能力不足箇所での整備を優先しているため、被害状況に応じた対策を取らざるを得ない。
- 河床低下が原因で取水しづらいということは、学識者会議でも意見が挙がっており、難しい問題ではあるが調査・検討を進めていきたい。
- 樹木管理については、生態学術研究会を作って、学識者と研究しており、アレチウリやハリエンジュは毎年冠水する環境を作ってやれば、活着しないということがわかってきている。公募伐採と合わせて工夫しながら進めていきたい。

(千曲市)

- 一級河川更級川と千曲川との合流部について、県管理河川で一部の堤体が低いことから、毎年のように住宅団地の一部が床下あるいは床上浸水する状況が続いている。堤防の嵩上げを県にお願いしているが、住民からは更級川排水機場の能力不足が原因ではないかと言われており、早急にポンプ増設をお願いしたい。
- 一級河川沢山川流域については、堤内地が低く、強制排水以外内水処理ができない状況である。沢山川については、県事業でセミバック堤が改修済であるが、土口水門が千曲川の水衝部にあたり、外水の上昇によってなかなか内水処理ができない状況であり、地域、流域住民から排水機場の新設をお願いしている。
- 住民にとっては、新たに計画をつくるのであれば、従前の計画に比べて整備が進

んだことが実感できるような予算措置が必要である。特に限られた予算の中では、緊急性の判断が伴った中での優先順位がつけられるが、沿川住民にとっては、自分たちの生活を守りたいというのが本音であり、是非、実のある計画にしていきたい。

(事務局)

- 予算の獲得については頑張っていきたいと考えている。
- 内水については問題意識を持っているが、予算的な問題で手当てができない状況ではある。今年さらに排水ポンプ車を1台増強して、有事のときには対応できる体制を整えている。

(信州新町)

- 当町の犀川中抜け区間の対策についても、県の河川整備計画が必要になるが、国の河川整備計画が策定されなければ、県の河川整備計画も立てられないと聞いている。また、計画策定まで2年間かかるという説明があったが、1日でも早く計画策定をお願いしたい。
- 整備計画策定の具体的な時期が分かれば、お聞かせ願いたい。

(事務局)

- 整備計画の策定スケジュールについては、骨子までが今年度、最終の策定までが来年度、おおむね2年で考えている。
- 県区間については、上下流の影響があると考えられるので、長野県と調整しながら策定していく。

(坂城町)

- 坂城町では上田市との境の右岸に無堤地区があり、現在、仮設の堤防が整備されているが、仮設とはいえ水防上、治水上からもぜひ、維持・補修という観点の中で、存置をお願いしたい。
- ハリエンジュについて、大望橋から下流、坂城大橋に向かって、視認性が非常に悪いので伐採をして頂いているが、今後も継続してお願いしたい。
- 当町は千曲川クリーンキャンペーンということで、春に1回、ボランティアの方に五、六百人出ただいて川の中のクリーンキャンペーンを実施している。引き続きその伐採が進むと、不法投棄等もだんだん減ってくると思われる。

(事務局)

- 仮設の堤防はあくまで仮設という位置づけである。

(小布施町)

- 堤外地の中の民地について、洪水時に立ヶ花上流の小布施のところに滞水するため、泥、ゴミが相当置いていかれる。この処理をするために、大きな事業を一市町村で行うのは非常に切ない。今後の整備計画の中で、堤外地の中の民地をどうするのかという方向性を出していただきたい。
- 堤外地で耕作されている方も、高齢化が進む中で、洪水が頻発すると耕作放棄と

いうことになって、河川空間が非常に荒れてくる心配もあるのではないかと。

- 松川が千曲川に合流し、非常に狭い堤外水路となるが、氾濫するため非常に困っているの、そういったものの見直しをお願いしたい。
- 平成 16 年から進めていただいた八木沢の樋門の改築が、今年完成したが、着手前に町民の方と約束をしていただいた、八木沢川に水を流すということがまだ履行されていないので、整備計画をつくる際に、もう一度点検をしていただきたい。
- 松川と八木沢が合流した川は、昨年まで魚が泳いでいたが、今年からは魚がいなくなってしまった。河川空間が廃れていくことにもなりかねないため、対応をお願いしたい。

(松本市)

- 梓川は非常に急峻な川であり、護岸の根固めブロックといったものが非常に流されているので、整備計画の中で順次整備するようにしていただきたい。

(大町市)

- 下流域の保全ということで意見が出ているが、昨今、多発するゲリラ的な降雨の災害に対し、上流の河川も備えるようにしていただきたい。

(事務局)

- 気象変化に伴った危機管理体制を意識しており、整備計画策定時に考えていきたい。

(野沢温泉村)

- 野沢温泉村内の千曲川の管理は、県の管理であるが直接大きな被害等はない。しかし、北部地域は集落が点在していて、増水とすると農地が浸水してしまい、耕作している方が平成 16 年、18 年の 2 年間、苦労している。これより、上流と下流のバランスの取れたかたちで整備をしていただきたい。

(上田市)

- 県管理の依田川の合流点部分について、流下方向が上流に向いてしまっている状況になっている。河川改修に伴う用地の買収等は全部済んでおり防災上、特に支障はないとはいえ、小規模な集中的豪雨により支流と本流の流量比が変化する可能性があるの、それに対する改修をお願いしたい。
- 河床低下している部分があるので、低水護岸等を計画していただき、河川内の土地の有効利用を兼ねて、市民が親しむ場をつくるという計画を立てたらどうか。

(中条村)

- 中条村は県管理の犀川の一部が該当し、東京電力の笹平発電所の湛水区域になっているということで、過去には大きな洪水被害は起きていない。
- 外来種のアレチウリが近年急速に繁茂している。地域のボランティアの方々と、抜き取り作業などを行っていた経過もあるが、今では手の施しようがなくなっているため、景観に配慮するといった面を計画の中の盛り込んでいただきたい。

(事務局)

- アレチウリ等の外来種対策は非常に重要な課題であり、意見を伺った上で考えていきたい。

(波田町)

- 災害復旧をしていただいたが、3か所ほど残っている箇所があるので、予算面もあるかと思うが、順次お願いをしたい。
- 河川の不法投棄について、ハリエンジュが繁茂しているために、ごみを捨てやすいという環境にある。民地が多いので行政と話し合いながら、伐採と併せて環境整備もお願いしたい。

(栄村)

- 平成18年7月の洪水では、国交省の排水ポンプ車をお借りして、人家への被害を防ぐことができた。
- 近年、上流部での整備が進むにつれ、長野県で一番低い当村では被害が大きくなる傾向にあるので、計画の策定にあたっては、上・下流でバランスの取れた整備計画をお願いしたい。
- 湯滝橋下流から県境、新潟県の津南町から十日町までの中抜け区間を一日でも早い直轄管理の実現をお願いしたい。

(事務局)

- 直轄化については、政府で大きい議論をされているところであり、また、同盟会等で要望されている事実は認識しているので、その状況を見て今後対応していきたい。

(長野市)

- 国交省では、色々な管理を県に委ねるといった報道がされており、道路、河川にしても、県管理を多くしようとされていると思うが、千曲川・犀川にとっては絶対ありえないと考えているので、全て千曲河川事務所さんの管理にするという意気込みでお願いしたい。

(千曲市)

- 直轄管理化について、全国知事会の動きがわかったら、お話ししたい。

(長野県)

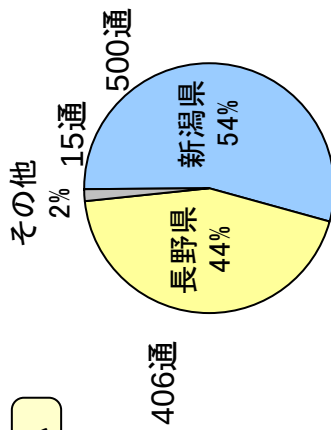
全国知事会ではないが、地方分権改革推進委員会の中で中抜け区間の議論が行われている状況である。

— 以上 —

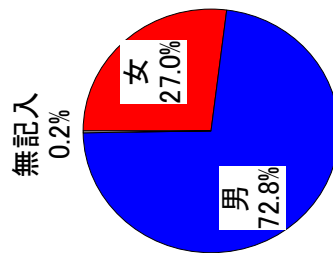
信濃川流域住民アンケート 集計結果

河川整備計画策定に向け、川に関するご意見を「郵送」、「FAX」、「インターネット」にて、お受けしてきました。平成20年12月末現在、921通のご意見をいただきました。ご協力ありがとうございました。

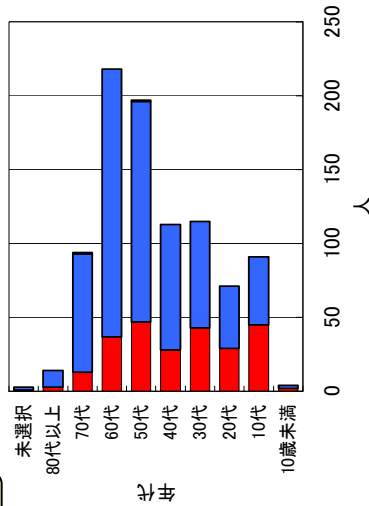
質問 どちらにお住まいですか



質問 性別を教えてください

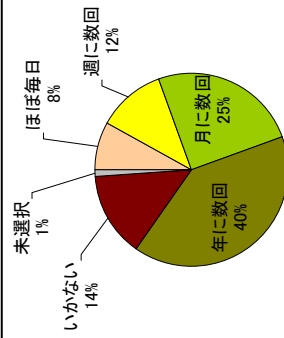


質問 年齢を教えてください



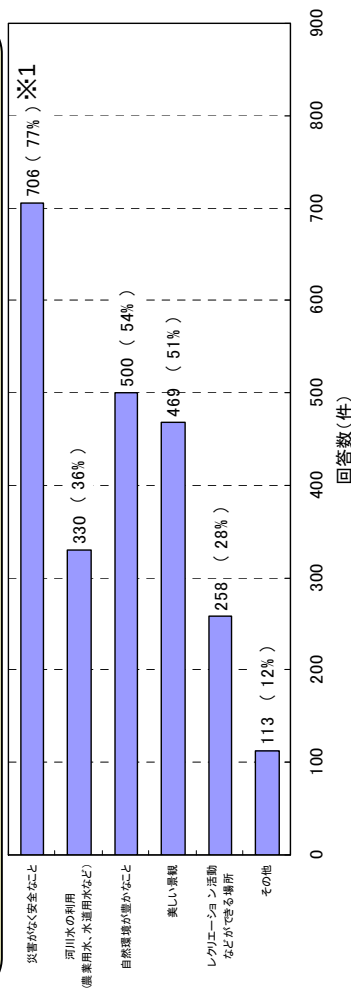
質問 あなたはどれくらいの回数、川へ行きますか

- 1: ほぼ毎日
- 2: 週に数回
- 3: 月に数回
- 4: 年に数回
- 5: 行かない



質問 あなたが川に求めるものは何ですか(複数回答可)

- 1: 災害がなく安全なこと
- 2: 河川水の利用(農業用水、水道用水など)
- 3: 自然環境が豊かなこと
- 4: 美しい景観
- 5: レクリエーション活動などができる場所
- 6: その他



※1 ご意見総数 921通にしめる割合

質問 その他、川に関してご意見、ご希望等ご自由にお書きください。

アンケートにおいて、総数587通のご意見をいただきました。

いただきましたご意見は

- ・築堤や河道掘削など治水事業による安全な川づくりに関するもの
- ・河川利用のための整備や川に親しむことができる川づくりに関するもの
- ・「環境への配慮」「景観」「外来種対策」「水質関連」の河川環境に関するもの
- ・「ゴミの不法投棄」「樹木伐採、除草」「土砂堆積」の維持管理に関するものが主なものでした。